

喜志西小だより



令和8年度 第4号
令和8年 6月30日
富田林市立喜志西小学校

絆創膏が貼れない傷と言葉の魔法

楠 浩子

子どもたちの会話の中で、ふと胸が締め付けられる……。それは、誰かの心を深くえぐり、尊厳を傷つけてしまうような「棘(とげ)のある言葉」を耳にしたときです。

周囲の会話やあらゆる情報から、日々スポンジのようにたくさんの言葉を吸収する子どもたち。その中には、その言葉の持つ本当の意味や、言われた相手の痛みを想像しないまま、「腹が立ったから」「誰かが言っていたから」「その場のノリで」という理由で、悪気なく使っているものも少なくないでしょう。

言葉は、落ち込んでいる誰かの背中を優しくなでたり、あたたかく手を握ったりすることができます。しかし、誰かを冷たく突き飛ばし、心を叩いてしまう恐ろしい手にもなってしまいます。転んで擦りむいたひざの傷は、絆創膏を貼ればいつか治ります。けれど、言葉によってつけられた心の傷は、目に見えないからこそ手当てが難しく、治るまでにとても長い時間がかかってしまいます。子どもたちも、その人生の中で傷ついた経験があるのかもしれません。

本校では緊急に、「言葉で人を傷つけないために」考える学習を全学年で実施します。どんな言葉が相手を笑顔にし、どんな言葉が人を深く悲しませるのか、子どもたちの心に届くよう授業にとどまらず根気強く伝えていきます。それと同時に、子どもたちにとって一番身近で、一番心に響くのは、ご家庭や学校における日々の何気ない会話でのあたたかい言葉のやり取りです。

ある教室での子どもと教職員の会話です。「先生、○さんが黒板をきれいにしていました。」「わあ、嬉しい。そして、友だちのいいことを教えてくれたことも、とっても嬉しいです。」

子どもたちが、言葉を「誰かを傷つける武器」としてではなく、「誰かと心をつなぐあたたかい魔法」として使いこなせるように。私たち大人もまた、自分自身を見つめ直し、手本となりながら、子どもたちの心の成長を一緒に見守っていかねばならないと願います。



土曜参観がありました

6月6日(土)に土曜参観がありました。土曜参観では、4月から成長した子どもたちのようすを見ていただけたことかと思います。当日はたくさんの保護者の方々が参観に来ていただきました。おいそがしい中にもかかわらず、ありがとうございました。

また、同日に多目的室にて開催されたPTAリサイクルバザーにも多くの保護者の方に来ていただくことができました。リサイクル品を活用していただくことができ、あわせてお礼申し上げます。



2・3年生 こども演劇ふれあい事業

6月17日(水)に「こども演劇ふれあい事業」が行われました。この事業は富田林市が劇団カップ座さんと協力し、子どもたちのコミュニケーション力を育むために行われています。

当日は、言葉遊びなどのワークショップや「がまくんとかえるくん」の演劇などが行われました。対象の2、3年生の子どもたちは生き生きと活動に参加したり、楽しく演劇を鑑賞したりすることができました。



1学期の個人懇談会があります

7月10日(金)～15日(水)で個人懇談会が行われます。1学期の間、お子さまの学校生活でのようすや、どのように成長したかなどお伝えできればと思っています。暑い中での来校になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

